

## 議事の概要

### (1) 議長、副議長の選出

議長に小田委員、副議長に山川委員を選出

### (2) 平成28年度生涯学習・社会教育関連主要事業及び関連予算について

資料1に基づいて、平成27年度生涯学習・社会教育関連主要事業及び関連予算について、概要を説明（林課長、蓼原課長、高山課長）

<質疑等>

（橋本委員）

沼田公民館について、建替えの際に内部だけではなく、駐車場も含めた外部の景観についても考えたらよいのではないか。

また、中央公民館は少しずつの補修ではなく、一度に補修もしくは立替えができないのか。

（林課長）

沼田公民館については、基本設計を終え、実施設計をしている段階であるため、建物に新たな工夫を加えることは難しい。地元住民の希望としては、駐車場を確保してほしいという意見が多くあったため、駐車場の整備を進めていく中で、景観についても工夫していきたいと考える。

また、公民館の修繕についてだが、71館ある公民館の多くは30年～40年経過しており、各公民館で様々な不具合が生じている。しかし、予算は限られているため、公民館の要望に対して優先順位を付けながら修繕を行っていかねばならず、各館少しずつの補修にならざるを得ないところである。

（酒川委員）

「10オフ運動の推進」について、広域で取り組んでいる事業なのか、市独自の事業なのか。また、予算が他と比較すると少ないが、具体的には誰を対象に、何をしようとしているのか。

（蓼原課長）

他都市でも似たような事業を実践しているが、本市と他都市が連携した事業ではない。

本事業は、利用に関する「夜9時以降は送信しない」、「遅くとも夜10時までには電源を切る」、「家族でルールをつくる」という3つをテーマとして取り組んでいる。対象者は小学生と中学生であり、携帯電話やスマートフォンを使用している子どもたちに基本的な生活習慣を身につけさせることを目的としている。

（酒川委員）

啓発運動としてどのようなことをしているのか。また、目標設定の時間は現実的なのか。

（蓼原課長）

啓発は小学校と中学校に全児童生徒にチラシを配ったり、学校にポスターを掲示したり、市民と市政で広報したりしている。

また、実際に子どもたちの使用状況を調査してみると、設定時間以降も使用しているという実態がある。しかし、根気よく続けていくことが大事であると考えており、他都市も同様な時間設定が多い。

（山川副議長）

建替えの際に、今後公民館をどのような人に利用してほしいのか、また、公民館をどのように利用してほしいのかという点について考えているのか。

また、教育基本法第3条の生涯学習の理念の中で、学習成果を適切に生かすことのできる社会が生涯学習社会であるとしているが、広島市の事業に市民が学んだ成果を活かすという観点は含まれているのか。

(林課長)

建替えの機会については、地元住民の意見をしっかりと取り入れていきたいと考えている。

また、事業については、市民の様々な学習ニーズを取り入れたものを実施しているところであり、どのような成果が生まれているのか、学んだ成果をどのように活かしているのかという点についてもしっかりと意識していきたい。

(武鑑委員)

「少年サポートセンターひろしま」について、場所はどこにあるのか。また、一般市民も利用できるのか。

(高山課長)

場所は中区役所の東隣にある北庁舎別館の一階にある。ここでは、市民からの相談にも対応をしている。

(武鑑委員)

中央公民館については、早めに整備していただきたい。

(小田議長)

公民館の整備については、地域ごとの特徴を活かし、10年20年先を見越した整備をしていただきたい。

### (3) 平成28年度社会教育関係団体への補助金の交付について

資料2に基づいて、平成28年度社会教育関係団体への補助金の交付についての概要を説明 (林課長、蓼原課長)

### (4) 広島市子どもの読書活動推進計画(第三次)(案)について

資料3、資料4及び資料5に基づいて、概要を説明 (林課長)

<質疑等>

(和田委員)

計画を推進していく際、予算はついているのか。

(林課長)

図書館については、指定管理者制度を導入しているため、指定管理期間内の予算範囲内で着実に取り組んでいくこととしている。

(鈴木委員)

小学校で読み聞かせボランティアをしているが、学校司書については非常に少ないと感じている。司書の資格をもっている先生ではなく、学校司書を配置してほしいというアンケートの要望をしっかりと反映してほしい。

(林課長)

計画本文のP. 33(6)に新規項目として学校図書館運営体制の充実を掲げ、学校図書館の運営体制の充実を図ると記載している。現行計画と比較すると、学校司書を充実させるよう教育委員会も考えているところである。今後は、計画の進捗状況を社会教育委員会議で報告をしていきたいと考えているため、不十分な点があればお聞かせ願いたい。

(佐々木委員)

前回の社会教育委員会議において、児童館の本の充実を図っていただきたいと要望したところ、その要望を取り入れていただき、P. 29(5)「児童館における読書環境の充実」として、子どもたちのニーズに応じた選書に努めると記載され、大いに期待しているところである。

(山川副議長)

児童館や公民館での読書環境の充実を考えると、利用者が本を借りて帰りやすいような空間にしていくのか。もしくは、利用者の滞在時間を長くし、施設内で本を読むことができる空間にしていくと考えているのか。

(林課長)

公民館の読書空間について、はっきりとした理念があるわけではなく、運営の基本的な姿勢は利用者が気持ちよく利用できるような環境をつくっていくことである。

(山川副議長)

大塚公民館は子どもたちの図書室の利用率が高いと記憶しているが、そのような利用率の高い公民館や図書館について調査し、計画に反映していただければよいと考える。

(林課長)

委員の意見を参考にしていきたい。

(小田議長)

社会教育委員会議で話したことが、いかに現場に伝わっているのかが気になるところである。指定管理者に委託をしていると、委託を受けている側と管理側とがしっかりとコミュニケーションをとっていないければ、社会のニーズとずれた運営となってしまうことを危惧している。また、どこの公民館も同じ運営ではなく、地域のニーズに沿った公民館の運営をしていかなければならないと考える。

(酒川委員)

学校図書館ボランティアの人数が平成23年度以降減少しているが、どの程度減少しているのか。また、ボランティアの年齢構成はどうなっているか。また、司書の資格を取る学生が多い中、学生のモチベーションを維持するためにも、やる気のある学生を学校図書館ボランティアとして活動させてみるとよいのではないか。

(林課長)

ボランティアの人数等については、資料を持ち合わせていないため正確な数値を把握していないが、教育委員会からは、学校の規模や地域によって随分と違う状況であると聞いている。また、学生のボランティアを募集するという意見については、教育委員会にも伝え、ボランティアの充実に努めていきたい。

(橋本委員)

図書館施設に行かなくても、喫茶店やスーパーなど自分たちの生活の身近に本を読める空間があれば、新しい方向の読書の推進ができるのではないか。

(網師本委員)

着地点をどこに置くかが大事であると考え。学校司書については、モデル校をつくりその成果を市民にPRできると予算もつくのではないか。到達目標を掲げ、そこに向けて尽力していただきたい。

(松本委員)

スマートフォンやタブレットの活用も含まれているのか。

(林課長)

電子書籍についても含まれている。

(大心池委員)

子どもたちをスマートフォンとどう向き合わせていくのが気になるところである。10 オフ運動の話については、制限が非常に難しい中、子どもが制限を守ろうという気持ちになる方向性を考えていただきたい。

(蓼原課長)

子どもたちや保護者に、スマートフォンの使用を制限することで生まれるメリットをしつかりと伝えることが大事であるとする。小中学生にアンケートを実施した結果、3割から5割が「家族の会話が増えた」「勉強に集中できた」と回答しており、それらのメリットをいかに伝えていくかを考えていきたい。

**(5) 広島市映像文化ライブラリー条例の一部改正について**

**社会教育委員が関係する他都市での大会等の予定について**

資料6に基づいて、広島市映像文化ライブラリー条例の一部改正について、資料7に基づいて、社会教育委員が関係する他都市での大会等の予定について、概要を説明（林課長）

**(6) その他**

(田村課長補佐)

社会教育委員会会議は、次回の会議の日程は、改めて調整させていただきたい。事務局からは以上である。

(小田議長)

最後にお願いだが、社会教育委員の中で、社会教育に関する調査や研究をしてみたい分野があれば意見をいただければと考えている。

本日は熱心なご審議に感謝する。以上で閉会とする。